

一般財団法人アジア政経学会 2023 年度事業概要報告書

アジア政経学会は、2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日の間、以下の活動を行った。2023 年度にはアジア政経学会創立 70 周年を迎え、多くの記念事業を含む学会活動を行った。

1. 大会の開催

2023 年度も例年どおり、春季と秋季の 2 回、大会を開催した。創立 70 周年記念春季大会は、2023 年 6 月 10 日（土）～11 日（日）、東京大学駒場キャンパスで開催された。7 つの自由論題セッションで計 20 件の報告、2 つの自由応募分科会で 6 件の報告が行われた。共通論題は、「日本のアジア研究の遺産と展望」と題して、アジア政経学会が設立されて 70 周年にあたる記念の年に、これまでのアジア政経学会の活動の成果を回顧するセッションとして企画された。研究環境が急激に変化する中で学会を中心にした研究活動を回顧する意味、及び個別ディシプリンと地域研究の関係といった「古くて新しい問題」をどう考えたらよいかの問いかけられた。

さらに、国際シンポジウム・樫山セミナー「アジア地域における政治経済秩序の新ダイナミズムー学術的アプローチのパラダイムシフト」では、2020 年代に入って顕著となったアジアの政治経済的な構造変化について、既存の学術枠組に拘らない学際的なアプローチの必要性が高まっているのではないかという問題意識に基づき、それぞれの学術的アプローチからの新しい課題に焦点を当てた議論が行われた。

1 日目には、会員総会、理事会、評議員会と、アジア政経学会優秀論文賞授賞式も行われた。春季大会としては 4 年ぶりの懇親会も行われた。

秋季大会は、2023 年 11 月 25 日（土）に京都大学川端キャンパス稲盛財団記念館にて対面方式で開催された。7 つの自由論題セッションで計 16 件の報告、2 つの自由応募分科会で計 5 件の報告が行われた。共通論題「グローバリゼーションとその反転：アジアの半導体関連産業の事例を中心として」では、経済のグローバル化および近年の米中間の経済「対立」が半導体産業、世界経済および経済安全保障に与えている影響について議論した。昨年の秋季大会に続いて懇親会も行われた。

研究大会のプログラムは学会の公式ホームページ (<http://www.jaas.or.jp>) に掲載されており、各セッションの議論の概要は同じくホームページ掲載の「ニューズレター」にまとめられている。

2. 定例研究会の開催

定例研究会は、主に若手会員を対象に、研究大会での報告の前段階として研究のレベルア

ップを図る場として設定されている。2023年度は、9月23日(土)、12月23日(土)、2024年3月23日(土)の3回、第33回～第35回定例研究会が開催され、計7件の報告報告が行われた。いずれもオンラインでの開催となり、多くの学会員の参加を得て、討論者からのコメントを中心に活発な議論が行われた。

定例研究会のプログラムも、学会ホームページに掲載されている。

3. 学会誌の発行と公開

学会誌『アジア研究』は、第69巻第2号から第70巻第1号まで4冊が刊行された。研究大会で開催された共通論題および国際シンポジウムをもとに、第69巻第3号に「特集：ミャンマー政変と東アジア地域秩序」、第70巻第1号に「特集：日本におけるアジア研究の遺産と展望」が掲載された。また学会創立70周年記念企画として、第69巻第2-4号と第70巻第1号に「特集：アジア政経学会設立70周年記念 歴代理事長インタビュー」の「第1-6回」が掲載された。このほか、論説5本、研究ノート2本、書評13本が掲載された。各号の掲載内容は以下のとおりである。

- 2023年4月に第69巻第2号を刊行。論説1本、「特集：アジア政経学会設立70周年記念 歴代理事長インタビュー 第1回 平野健一郎」、書評3本。
- 2023年7月に第69巻第3号を刊行。研究ノート1本、「特集：ミャンマー政変と東アジア地域秩序」(序論を含めて論説5本)、「特集：アジア政経学会設立70周年記念 歴代理事長インタビュー 第2回 山田辰雄、第3回、渡辺利夫」、書評4本。
- 2023年10月に第69巻第4号を刊行。論説2本、「特集：アジア政経学会設立70周年記念 歴代理事長インタビュー 第4回 中兼和津次、第5回、石井明」、書評4本。
- 2024年1月に第70巻第1号を刊行。論説2本、研究ノート1本、「特集：日本におけるアジア研究の遺産と展望」(趣旨説明を含めて論説8本9、「特集：アジア政経学会設立70周年記念 歴代理事長インタビュー 第6回 天児慧・末廣昭 第7回 天児慧、第8回 末廣昭」、書評2本。

『アジア研究』は、科学技術振興機構(JST)によるオンライン公開システム J-Stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/asianstudies/-char/ja/>) を通じて1954年の創刊号から最新号まで自由にアクセスすることができる。

2022年5月から、『アジア研究』はJ-Stageの機能である「早期公開制度」を導入している。「早期公開制度」とは、審査・査読過程を経て採択となった論説・研究ノートを紙媒体での掲載号刊行を待つことなくオンライン上で先に公開する仕組みである。この制度の導入により、会員の研究成果をより早く発信できるようになった。

4. ニュースレターの発行

ニュースレターは、2023年9月に第60号、2024年3月に第61号を発行した。2023年春季大会と秋季大会の参加記、第20回アジア政経学会優秀論文賞の選考委員長による講評

と受賞者の言葉、定例研究会の記録、入退会情報などを会員に提供した。

5. 顕彰事業

2023年6月の春季大会にて、第20回アジア政経学会優秀論文賞の表彰式が行われた。この賞は本学会の学会誌に掲載された若手研究者の論文を中心に、同賞選考委員会が選考を行い、毎年授与されるものである。今回の受賞作は、許楽会員による「中国における失業保険制度の創出—社会保障の構築をめぐる政治力学」（『アジア研究』第68巻第4号掲載）であった。

6. 学会創立70周年記念事業

アジア政経学会は、2023年に創立70周年を迎えた。2023年全体を、本学会とアジア研究の歩みを振り返り今後を展望する機会と位置づけ、理事会内に70周年企画委員会を設けて以下の活動を行った。

2022年度に第11代～第19代理事長8名（在任期間1989～2007年）に対して、それぞれの理事長在任時代のアジア情勢とアジア研究動向、本学会の課題などについて個別インタビューを行い、動画として収録した。第21代～第26代理事長6名（在任期間2009～2021年）には、同様の内容を座談会の形で語ってもらい、動画に収録した。2023年度には、これらを編集して学会創立70周年記念特集として『アジア研究』に連載した。

2023年度の春季大会を学会創立70周年記念大会と位置づけ、創立記念の共通論題を開催した。

7. 学会ホームページの改修

2022年度に、学会創立70周年の節目を翌年に控え、開設以来増設を続けてきた学会ホームページの抜本的な改修作業を進めた。具体的には、改修の工程を大きく、基本枠組み構築、オンライン会員管理システム導入の二つに分け、それぞれ複数の業者を比較検討したうえで担当業者を選定した。

基本枠組み構築にともない、現在掲示されているすべてのコンテンツを精査し、コンテンツの取捨選択、内容更新、新規作成などの作業を行った。

改修後のホームページは、2023年7月に公開され、運用を開始した。会員管理システムでは、入会申請、会員情報の会員自身による変更、会費支払いのオンライン化が可能となった。